

園芸タイムリー情報

《8月上・中旬版》

令和2年8月3日発行 第6号
 上川農業改良普及センター
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- 天気は数日周期で変わり、平均気温は高い見込みです。
- ①ハウス内が高気温で経過する日が多くなるため、高温障害に注意します。換気やかん水等を適切に行い、生育環境の確保に努めましょう。
 - ②遮光資材を利用する場合は曇天時の被覆は避け、過度な遮光とならないようにしましょう。
 - ③病害虫の多発時期となります。ほ場観察や予察情報に基づき、薬剤のローテーションを考え、適切な防除対策を実施しましょう。
 - ④余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょう。
 熱中症防止のため、適度な休憩と水分・塩分補給を行いましょ。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。


| 作物名 | あぶらな科野菜全般 | |
|---|--|---|
| 病害虫生理障害名 |  |  |
| キスジノミハムシ | | こまつな葉部食害 ラデッシュ根部食害 |
| 発生状況 | | |
| 中～多発生 | | |
| 発生時期 | | |
| 6月上旬～ | キスジノミハムシ成虫 (体長2～3mm) | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。 気温の上昇に伴い、7月から成虫の発生が増加している。 7月～8月に発生がピークとなる傾向がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●成虫期間：1～4ヵ月 ●卵期間：5～7日 ●幼虫期間：10～20日 ●蛹期間：3～15日 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 <p><防除の一例></p> <p>こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回 <p>チンゲンサイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回 ●チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回 | | |

| 作物名 | アスパラガス | |
|--|---|---|
| 病害虫生理障害名 |  |  |
| ツマグロアオカスミカメ | | |
| 発生状況 | | |
| 発生に注意 | | |
| 発生時期 | | |
| 5月～ | | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 5月下旬より1～2mmの幼虫が地際部付近に寄生し、アスパラガスの生長とともに穂の根元と柔らかい部分を吸汁し、直径1mm内外のへこみ、条状の裂けや褐変、曲がりとなる。 収穫後のほ場で増殖し、10月中旬まで被害が確認される。 莖葉に産卵される卵で越冬する。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 越冬卵は8月中旬以降に産卵されるので、産卵を低減するため、8月以降に薬剤を散布する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●アディオナ乳剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ハチハチフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 | | |

| 作物名 | あぶらな科野菜全般 | |
|---|---|--|
| 病害虫生理障害名 |  |  |
| コナガ | コナガ成虫 | |
| 発生状況 | | |
| 中発生 | | |
| 発生時期 | | |
| 5月下旬～ | コナガ幼虫 | 幼虫による葉の被害 |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉裏に潜み、葉を食害する。 5月上旬に成虫の初発が確認され、5月下旬から幼虫の発生が見られている。 7月下旬以降、発生が増加しているので注意する。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 防虫ネット(目合1.0mm)は、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。 シアミド系(プレバソフフロアブル5等)の薬剤抵抗性個体群が出現している。防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 | | |

| 作物名 | たまねぎ | |
|--|---|--|
| 病害虫生理障害名 |  | |
| ネギハモグリバエ | | |
| 発生状況 | | |
| 多発生 | | |
| 発生時期 | | |
| 5月下旬～ | 7月28日撮影 | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 5月下旬から第1回目発生が見られていたが、7月下旬から多発しているほ場が見られる。(写真) | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> りん茎被害を抑えるための重点防除時期は8月上旬なので、発生が多いほ場では防除を行う。 この時期の2回防除を行うと効果が高い。 葉身部全体に薬剤が付着するよう、展着剤を加用する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 収穫3日前まで 3回以内 ●ディアナSC 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>※リーフガードを3回使用した場合は、ディアナSCを選択する。</p> <p>※いずれの薬剤も展着剤を加用する(まくびか等)。</p> | | |

| 作物名 | あぶらな科野菜全般 |
|---|---|
| 病虫害 生理障害名 | ウスカワマイマイ |
| ナメクジ類 カタツムリ類 |  |
| 発生状況 | |
| 少～中発生 | |
| 発生時期 | |
| 5月上旬～ | チャコウラナメクジ |
| 発生の状況・要因 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となる。 雨上がりや夜間は活発に活動する。 6月以降被害が目立っており、今後も注意が必要である。 | |
| 対策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所に好んで生息することから、これらの場所からの発生に注意する。 スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 | |
| <防除の一例> | |
| ●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時 | |

| 作物名 | すいか・メロン・きゅうり |
|---|---|
| 病虫害 生理障害名 | |
| アブラムシ類 |  |
| 発生状況 | |
| 少発生 | |
| 発生時期 | |
| 6月上旬～ | すいかに発生したアブラムシ(左)と被害葉(右) |
| 発生の状況・要因 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。 ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。 | |
| 対策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 | |
| <防除の一例> | |
| ●チェス顆粒水和剤 | |
| きゅうり | 5,000倍 収穫前日まで 3回以内 |
| すいか・メロン | 5,000倍 収穫3日前まで 4回以内 |
| ●モスピラン顆粒水溶剤 | |
| きゅうり | 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 |
| すいか | 2,000～4,000倍 収穫3日前まで 3回以内 |
| メロン | 8,000倍 収穫3日前まで 3回以内 |

| 作物名 | すいか・メロン・きゅうり |
|---|--|
| 病虫害 生理障害名 | |
| ハダニ類 |  |
| 発生状況 | |
| 中発生 | きゅうり |
| 発生時期 | すいか |
| 6月上旬～ | メロン |
| 発生の状況・要因 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。 | |
| 対策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 | |
| <防除の一例> | |
| ●ピラニカEW | |
| すいか・メロン | 2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回 |
| きゅうり | 2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回 |
| ●カネマイトフロアブル | |
| すいか・メロン・きゅうり | 1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回 |

| 作物名 | すいか・メロン・きゅうり |
|--|---|
| 病虫害 生理障害名 | |
| うどんこ病 |  |
| 発生状況 | |
| 少発生 | |
| 発生時期 | |
| 7月上旬～ | きゅうりの葉表に発生した白いかび |
| 発生の状況・要因 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。 例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。 過繁茂になると発生しやすい。 | |
| 対策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 初発を確認したら薬剤散布を実施する。 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。 | |
| <防除の一例> | |
| ●ポリバリン水和剤 | |
| すいか | 1,000～2,000倍 収穫前日まで 4回以内 |
| メロン | 1,500～2,000倍 収穫前日まで 5回以内 |
| きゅうり | 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 |
| ●ベルコート水和剤 | |
| すいか | 1,000倍 収穫前日まで 4回以内 |
| メロン | 1,000倍 収穫前日まで 5回以内 |
| きゅうり | 2,000～4,000倍 収穫前日まで 7回以内 |

| 作物名 | きゅうり | 作物名 | きゅうり |
|----------|---|----------|---|
| 病害虫生理障害名 |  <p>発生初期の病斑 病斑の特徴</p> | 病害虫生理障害名 |  <p>葉裏に生じたカビ</p> |
| 褐斑病 | | べと病 | |
| 発生状況 | | 発生状況 | |
| 少発生 | | 中発生 | |
| 発生時期 | | 発生時期 | |
| 7月上旬～ | | 7月上旬～ | |

| 発生の状況・要因 | | 発生の状況・要因 | |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいカビを生ずる。 べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。 生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。6～10月に多発する。 草勢が衰えている場合に多発しやすい。 ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことのあるほ場では特に注意が必要となる。 | | <ul style="list-style-type: none"> 始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、古くなると褐変する。 褐斑病と良く似ているが、べと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。 曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。 | |
| 対策 | | 対策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 昨年発生したほ場では、予防防除を行う。 ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤は連用しない。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●フロボース顆粒水和剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内 ●セイビアーフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 | | <ul style="list-style-type: none"> 適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 発病初期に防除を開始する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内 ●フロボース顆粒水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 | |

| 作物名 | パセリ | 作物名 | ピーマン、ししとう、なんばん |
|----------|---|-------------|---|
| 病害虫生理障害名 |  | 病害虫生理障害名 |  <p>オオタバコガ 卵はばらばらに産卵 果実に食入して食害</p> |
| うどんこ病 | | ヨトウガ・オオタバコガ | |
| 発生状況 | | 発生状況 | |
| 発生に注意 | | 中発生 | |
| 発生時期 | | 発生時期 | |
| 8月上旬～ | | 6月下旬～ | |

| 発生の状況・要因 | | 発生の状況・要因 | |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。 気温28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。 8月上旬以降、発生に注意する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 7月下旬からピーマンでヨトウガの食害が目立っている。 ヨトウガは初め幼虫が集団で葉を食害する。成長に伴い分散し、食害量も増加する。 オオタバコガは飛来性害虫で、既に発生が確認されている。幼虫は一頭ずつ分散し、果実へ食入する性質が強い。 | |
| 対策 | | 対策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。 <p><防除の一例></p> <p>(発生前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クリーンカップ 1,000～2,000倍 収穫前日まで — ●クムラス 500～1,000倍 — — <p>(発生前～発生初期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫3日前まで 2回以内 | | <ul style="list-style-type: none"> 成長した幼虫には薬剤が効きづらいので、発生初期に防除を行う。 <p><防除の一例></p> <p>ピーマン・ししとう・なんばん カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プレオフロアブル タバコガ類 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 ししとう・なんばん カブリダニ類導入時にも使用可能 ●プレバソフフロアブル5 オオタバコガ 1,000～2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ピーマン カブリダニ類導入時は使用不可 ●アフファーム乳剤 オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 | |

| 作物名 | ピーマン・ししとう・なんばん | |
|---|---|--|
| 病虫害生理障害名 |  | |
| アブラムシ類 | ワタアブラムシ | |
| 発生状況 | モモアカアブラムシ | |
| 中発生 | | |
| 発生時期 | 6月上旬～ | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> モモアカアブラムシとワタアブラムシの発生が見られている。 モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。 ワタアブラムシの体色は黒、緑、黄で、下葉の葉裏に多く見られる。 ジャガイモヒゲナガアブラムシはやや大型で、上位葉への寄生では葉の変形や黄化が見られる。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> マルチに落ちた白いゴミのような抜け殻や甘露（べとべとした排泄物）を手がかりに発生を見逃さないよう努める。 発生初期は一部の株に寄生が集中するので、発生量の少ないうちは寄生された葉を取り除き広がるのを防ぐ。 下葉の裏側や、重なり合った葉、生長点付近の未展開の葉等に寄生している場合が多く、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。 <p><防除の一例>カブリダニ類の導入時にも使用可能</p> <p>ピーマン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>ピーマン・ししとう・なんばん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>ししとう・なんばん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内 | | |

| 作物名 | ピーマン・ししとう・なんばん | | | | | | | | | |
|---|---|--------|------|--------|--------|----|------|--------|--------|----|
| 病虫害生理障害名 |  | | | | | | | | | |
| ハダニ類 | | | | | | | | | | |
| 発生状況 | 葉表の黄化症状 | | | | | | | | | |
| 少発生 | 葉裏の黄化と褐変 | | | | | | | | | |
| 発生時期 | 6月中旬～ | | | | | | | | | |
| 発生の状況・要因 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 一部ほ場で発生が見られている。 高温で増殖が早くなるため、注意が必要である。 葉表の黄変と葉裏の褐変症状が見られ、加害部位には微少なダニが見られる。 密度が増加してくると細かな糸で巣を作り、薬剤が直接かかりづらくなるため防除が困難となる。 | | | | | | | | | | |
| 対策 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 抵抗性が発達しやすいので各薬剤は年1回のみでの使用が望ましい。 <p><防除の一例></p> <p>カブリダニ類導入時に使用可能（なんばんは該当なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カネマイトフロアブル <table border="0"> <tr> <td>ピーマン</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>1回</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●スターマイトフロアブル <table border="0"> <tr> <td>ししとう</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>1回</td> </tr> </table> <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●モベントフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 | | | ピーマン | 1,000倍 | 収穫前日まで | 1回 | ししとう | 2,000倍 | 収穫前日まで | 1回 |
| ピーマン | 1,000倍 | 収穫前日まで | 1回 | | | | | | | |
| ししとう | 2,000倍 | 収穫前日まで | 1回 | | | | | | | |


| 作物名 | トマト・中玉トマト・ミニトマト | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------|---------|--------------|--------|---------|-------|--------|--------|---------|--|--------------|--------|------|
| 病虫害生理障害名 |  | | | | | | | | | | | | | |
| 葉かび病・すすかび病 | | | | | | | | | | | | | | |
| 発生状況 | 葉裏のカビ | | | | | | | | | | | | | |
| 少発生 | 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難) | | | | | | | | | | | | | |
| 発生時期 | 5月上旬～ | | | | | | | | | | | | | |
| 発生の状況・要因 | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 発生は減少しているが、ミニトマトを中心に葉かび病が見られる。 両病害とも葉表に黄色の病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。 すすかび病では、進展すると葉表にもかびを生じる場合がある。また、すすかび病発生後に葉かび病も併発する例が多く見られる。 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 対策 | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 下葉から発生し、徐々に上位葉へ広がるので、ほ場をよく確認し、被害葉の除去と薬剤防除を行う。 葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するので、かん水管理や追肥遅れに注意する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●トリフミン水和剤 <table border="0"> <tr> <td>葉かび病</td> <td>3,000～5,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>5回以内(※)</td> </tr> <tr> <td>すすかび病</td> <td>3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>5回以内(※)</td> </tr> </table> <p>(※トリフミン水和剤はトリフミンジェットと合わせて5回以内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> | | | 葉かび病 | 3,000～5,000倍 | 収穫前日まで | 5回以内(※) | すすかび病 | 3,000倍 | 収穫前日まで | 5回以内(※) | | 2,000～3,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| 葉かび病 | 3,000～5,000倍 | 収穫前日まで | 5回以内(※) | | | | | | | | | | | |
| すすかび病 | 3,000倍 | 収穫前日まで | 5回以内(※) | | | | | | | | | | | |
| | 2,000～3,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | | | | | | | | | | | |

| 病虫害生理障害名 | 灰色かび病 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|--------------|------------|------|--|--------------|--------|------|--|--------|--------|------|
| 灰色かび病 |  | | | | | | | | | | | | |
| 発生状況 | 葉の病斑とかび | | | | | | | | | | | | |
| 少発生 | がくから感染した腐敗果実 | | | | | | | | | | | | |
| 発生時期 | 4月下旬～ | | | | | | | | | | | | |
| 発生の状況・要因 | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 発生は減少しているが腐敗果やゴーストスポットが見られる。 20℃位のやや低温と多湿で多発し、特に多湿条件や植物体が濡れている状態が続くことが発生に影響する。 高温期に果実に感染するとゴーストスポット症状となる。 枯れた花弁、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。 | | | | | | | | | | | | | |
| 対策 | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 換気を心がけ、必要に応じて下葉を摘除し通気性を確保する。 夜温が低く果実が冷えた状態で、ハウス内の温度が急激に上昇すると果実が結露し病害の発生を助長する。早朝から換気を行い、ハウス内の湿度を下げると共に急な温度上昇を避けて結露を防止する。 夕方の薬剤防除や葉面散布は避け、速やかに乾く晴天日の早朝に行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダコニール1,000 1,000倍 収穫前日まで <table border="0"> <tr> <td>トマト(果径3cm以上)</td> <td>4回以内、ミニトマト</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> <p>※予防剤のため発生のおさまったほ場での再発防止に使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 <table border="0"> <tr> <td></td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●アフェットフロアブル <table border="0"> <tr> <td></td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> | | | トマト(果径3cm以上) | 4回以内、ミニトマト | 2回以内 | | 2,000～3,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 |
| トマト(果径3cm以上) | 4回以内、ミニトマト | 2回以内 | | | | | | | | | | | |
| | 2,000～3,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | | | | | | | | | | |
| | 2,000倍 | 収穫前日まで | 3回以内 | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| 作物名 | トマト・中玉トマト・ミニトマト | |
| 病虫害 生理障害名 |  | |
| トマトサビダニ | 果実での被害（さび症状） | |
| 発生状況 | 褐変した茎葉 | |
| 少発生 | | |
| 発生時期 | 7月中旬～ | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 7月中旬にミニトマトで発生が見られた。 初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の茎葉や隣接する株に広がる。 葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。茎はほこりを被って汚れたように褐変し、果実はくすんだようなさび症状となる。 高温乾燥時に発生が増加する。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 高温期は増殖が早いので発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。 | | |
| <防除の一例> ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ※上記の剤は浸透移行性がないため、発生している株や周囲の株に葉裏等までまんべんなくかかるよう丁寧に散布する。 | | |

| | | |
|---|---|--|
| 作物名 | トマト・中玉トマト・ミニトマト | |
| 病虫害 生理障害名 |  | |
| コナジラミ類 | 幼虫 | |
| 発生状況 | 成虫 | |
| 少発生 | | |
| 発生時期 | 7月下旬～ | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 7月下旬にミニトマトでオンシツコナジラミの発生が見られた。 茎葉を揺ると体長1mm前後の白い成虫が舞うように飛ぶ。 中下位葉の葉裏には長楕円形で平たい幼虫や蛹が見られる。 排泄物が茎葉や果実の表面に堆積したところにかびが生えるすす病が問題となる。 高温期には増殖が早いので注意する。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 発生を見逃さないように注意し、薬剤防除を実施する。 黄色粘着板は本種の予察に有効である。 | | |
| <防除の一例> ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●ウララDF 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピラン顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピランジェット 50g/400㎡（面積200㎡×高さ2m） 収穫前日まで 3回以内 ※モスピラン顆粒水和剤とジェットは合わせて3回以内 | | |

| | | |
|---|--|--|
| 作物名 | トマト類（大玉、ミニ、中玉） | |
| 病虫害 生理障害名 |  | |
| アザミウマ類 | 産卵痕による白ぶくれ症状 | |
| 発生状況 | ミニトマトの金粉症状 | |
| 少発生 | | |
| 発生時期 | 6月中旬～ | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> トマトで産卵痕による白ぶくれ症状が見られている。 高温乾燥時に多発する傾向にあるので、引き続き発生に注意する。 葉にかすり状の白い食害痕や、果実への産卵で白ぶくれ症状が発生する。 ミニトマトではミカンキイロアザミウマの食害で金粉症状を示す。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ハウス周辺の雑草が多いと侵入が増えるので除草する。 発生初期に薬剤散布する。 青色粘着板は本種の予察に有効である。 | | |
| <防除の一例> ●ディアナSC アザミウマ類 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ウララDF ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピランジェット ミカンキイロアザミウマ 50g/400㎡（床200㎡×高さ2m） 収穫前日まで 3回以内 | | |

| | | |
|--|---|--|
| 作物名 | スターチス・シヌアータ | |
| 病虫害 生理障害名 |  | |
| 褐斑病 | 発病株の状況（下葉は枯死している） | |
| 発生状況 | | |
| 発生に注意 | | |
| 発生時期 | 8月上旬～ | |
| 発生の状況・要因 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 主に、1番花収穫期以降より発生が多く、葉に褐色の円形斑点が見られ、最終的に葉全体に広がり枯死に至る。 気温、湿度が高い気象条件で発生が多くなる。 発生は品種間差が大きく、過去に発病が見られたほ場では発生しやすい。 | | |
| 対策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 定期的防除を実施する（7～10日間隔）。発生が確認されたら5～7日間隔で防除を行う。 本病に対して登録薬剤がないため、灰色かび病防除の同時防除で対応する（展着剤加用）。 | | |
| <防除の一例> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 発病初期 5回以内 ●セイビアーフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内 | | |

| 作物名 | 花き類全般 | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----------|--------------|--------|----------|------|------------|--------------|------|------|-----------|--------|------|------|
| 病虫害生理障害名 |  | | | | | | | | | | | | | |
| 灰色かび病 | 摘蕾部より発病（きく） | | | | | | | | | | | | | |
| 発生状況 | がくの退色（シヌアータ） | | | | | | | | | | | | | |
| 中発生 | | | | | | | | | | | | | | |
| 発生時期 | 7月中旬～ | | | | | | | | | | | | | |
| 発生の状況・要因 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p><現在の発生状況></p> <ul style="list-style-type: none"> • きくでは、わき芽取り除いた跡、摘蕾跡から感染する。 • シヌアータはがくのつけ根や採花後の切り口に発生する。今後、降雨による高湿度条件により、発病が蔓延する可能性が高いので注意する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 対策 | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • ハウスの換気、通気性の改善 • きくでは、ハウスの裾はできるだけ開放し、またシェードの裾も15cmほど開ける。 • 午後からのかん水は控える。 • 発病すると蔓延が早いので、発病前に定期的な予防防除を行う。 <p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>○セイビアフロアブル20</td> <td>1,000倍</td> <td>発病前～発病初期</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>○フルピカフロアブル</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>発病初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>○ポリベリン水和剤</td> <td>1,000倍</td> <td>発病初期</td> <td>8回以内</td> </tr> </table> <p>※茎葉部だけではなく、地際部にもしっかり散布する。</p> | | | ○セイビアフロアブル20 | 1,000倍 | 発病前～発病初期 | 4回以内 | ○フルピカフロアブル | 2,000～3,000倍 | 発病初期 | 5回以内 | ○ポリベリン水和剤 | 1,000倍 | 発病初期 | 8回以内 |
| ○セイビアフロアブル20 | 1,000倍 | 発病前～発病初期 | 4回以内 | | | | | | | | | | | |
| ○フルピカフロアブル | 2,000～3,000倍 | 発病初期 | 5回以内 | | | | | | | | | | | |
| ○ポリベリン水和剤 | 1,000倍 | 発病初期 | 8回以内 | | | | | | | | | | | |

| 作物名 | 花き類全般 | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|---|----------|---------------|------|------|---------|------|------|------|---------|---------------|------|------|
| 病虫害生理障害名 | 花卉の褐変（きく） |  | | | | | | | | | | | | |
| アザミウマ類 | | | | | | | | | | | | | | |
| 発生状況 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中発生 | | | | | | | | | | | | | | |
| 発生時期 | | 発病株の状況（下葉は枯死している） | | | | | | | | | | | | |
| 7月上旬～ | | | | | | | | | | | | | | |
| 発生の状況・要因 | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • 特に夏期の高温期での被害が多く、花粉・花弁を食害する。 • 現時点で花蕾への発生が多く、花卉に褐変（きく）や白いかすり症状が目立っている。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 対策 | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • 定期的薬剤防除の徹底を図る（7日間隔）。 <p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●ダントツ水溶剤</td> <td>2,000倍～4,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>●アグリメック</td> <td>500倍</td> <td>発生初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●ディアナSC</td> <td>2,500倍～5,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>2回以内</td> </tr> </table> | | | ●ダントツ水溶剤 | 2,000倍～4,000倍 | 発生初期 | 4回以内 | ●アグリメック | 500倍 | 発生初期 | 5回以内 | ●ディアナSC | 2,500倍～5,000倍 | 発生初期 | 2回以内 |
| ●ダントツ水溶剤 | 2,000倍～4,000倍 | 発生初期 | 4回以内 | | | | | | | | | | | |
| ●アグリメック | 500倍 | 発生初期 | 5回以内 | | | | | | | | | | | |
| ●ディアナSC | 2,500倍～5,000倍 | 発生初期 | 2回以内 | | | | | | | | | | | |

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和2年7月27日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいようお願いします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【異物混入編】□■□■□■□

—異物混入防止は整理・整頓・出荷時の確認から—

- 収穫コンテナ類は汚れがないように管理し、破損している場合は速やかに補修または廃棄しましょう。
- 調製に使う器具は、使用前後に数を確認し、整理整頓を行いましょ。
- 異物が混入しないよう、作業場所を整理し、目視確認を行いましょ。
- 飲食は農産物に影響がない場所で行いましょ。
作業場所と隔離されていない場所で飲食する場合は、飲食後に清掃し、必要に応じて殺菌し、農産物の衛生に影響がないようにしましょ。